

# 既存展示の魅力を拡張するデジタル技術

## —環境省箱根ビジターセンター—

株式会社 乃村工藝社 プランニングディレクター 吉田雅之

### 一. はじめに

DX（デジタルトランスフォーメーション）推進のもと、新たなデジタル技術を活用したツールや表現手法などが、日常生活の中に広まり、それらが当たり前のように利用されていく状況が進展している。展示においても、最新デジタル技術等を踏まえ、新たな展示手法の開発や技術の応用などが行われてきており、利用者にとってVR（バーチャル・リアリティ）やAR（アグメンテッド・リアリティ）などを用いた展示インターフェイスは、以前にも増して身近なものとなってきた。新たなデジタル技術を活用することで、かつては表現できなかったことが可能となり、今までにはない展示効果を得ることもつながっている。これは既存展示もつ展示効果を活かしつつ、それを

さらに増大・拡張することも可能であることを意味する。

展示改装にはその方法にいくつかのパターンがあると思われるが、中でもデジタル技術を表示に付加することで、既存展示の本来の役割や展示効果を活かしたまま、展示全体の効果を増大・拡張する展示改装について、環境省箱根ビジターセンターを事例に紹介したい。

### 二. 運営活動との連動

環境省が進めている「国立公園満喫プロジェクト」の一環として、箱根ビジターセンターの展示改修が行われたが、機能強化のポイントは以下の三点である。①「多言語対応」および「デジタル技術」の観点からの充実、②上質で居心地のよい滞在空間創出のための工夫、③自然ふれあい活動を含めた利用拠点としての機能の充実。これらをもと

に、インバウンド対応も踏まえ、箱根地域の魅力をより顕在化し、情報発信機能の充実を図る施設として展示改修が進められた。

また、箱根ビジターセンターの基本理念には、ビジターセンターの重要な役割である、利用者を自然へ誘導する、自然の状況を伝える、自然教育活動・自然情報活動を行うことが定められている。同施設は平成一九年にリニューアルオープンしているが、この度の令和二・三年度のリニューアルは、さらにそのリニューアル後の施設利用状況、現状および関係機関等における取り組み状況、運営活動等を踏まえての展示改修となっている。運営活動は環境省、（一財）自然公園財団箱根支部、箱根パークボランティアにより行われており、企画展や自然観察会など、年間を通して数多くの魅力的な活動が行われているビジターセンターである。改装にあたっては、容易な展示替え、イベント時の展示活用など、さらなる充実した運営活動を支援するものとした。

### 三. 事例一

#### 対象へのまなざしの変化

展示コーナー「箱根生き物の森」は箱根の四季を紹介している。

その中心となる四季の絵画は、箱根の自然の魅力を特徴のある自然景観とともに季節ごとに描いており、来館者に四季を通じた箱根の素晴らしさを伝えている。箱根の四季の自然、動植物の世界が描き込まれた絵画は利用者から人気も高い。四季の絵画と対応するかたちで、その下では各季節ごとの生物を写真や実物等で紹介している。このコーナーの展示は、解説や説明など情報を提供することよりも、驚きや新たな発見など、自然への興味関心を促すきっかけとして位置付けられている。展示改装にあたっては、既存の四季の絵画を活かしつつ、より利用者の興味を引く展示とすることが目標となった。

絵画はある瞬間が描かれたものであり、例えばその前後の動き、時間的な推移の中で変化する自然のうつろいは、見る者の想像に委ねられている。改装にあたっては、ARを活用し、絵画に描かれている生物に動きを与えることで、四季の絵画をより楽しんでもらえるものとした。四季の絵画に描かれた特定の生物にタブレットをかざすと、生物がマーカーの役目をして、AR動画が起動し、鳥の鳴き声や風の音など、四季を感じさせる環境音とともに、生物の動きを楽しむこと

